

NHK ブラタモリで十勝岳大正泥流を紹介して考えたこと

北海道空知総合振興局札幌建設管理部

楨納 智裕

1. はじめに

NHK総合で土曜日の19時30分から20時15分に放送されているブラタモリは、タレントのタモリ氏と女性アナウンサーが、専門家とともに地域の歴史や成り立ちを解き明かしていく、まち歩き番組である。(萬年2019)

地形・地質といったゴールデンタイムで扱われることの少なかったテーマを掘り下げるにも関わらず、この時間帯に移行した2015年4月から8年余り継続して放送されている人気番組である。

筆者は2018年11月17日放送の#118 富良野・美瑛において1926年十勝岳大正泥流などを紹介する案内人として番組に関わる機会を得た。地形・地質を多く扱うブラタモリでも20世紀以降の土砂災害をメインに据える構成は当時前例がなく、それ以前に報道番組以外で砂防技術者がテレビ番組に関わる例は少ないことから、対応に悩む場面もあった。本稿はブラタモリの制作過程と案内人の役割、及びブラタモリで土砂災害を紹介する際に心がけるべきことなど、実際に体験して考えたことについて述べていきたい。

2. ブラタモリの制作過程

ブラタモリは放送回毎に1人のNHKのディレクターが専属で担当する。ディレクターは撮影の約3ヶ月前から現地リサーチを開始、専門家などへの取材、番組台本の作

成、案内人の人選、撮影本番、撮影後の編集など、番組制作の要として多岐に渡る作業を行う。

ディレクターから筆者への協力依頼は撮影の約1ヶ月前で、取材では災害からの復興過程に始まり、大正泥流とそれに伴う被害実態、まちの成り立ちや当時の産業など、幅広い質問があった。その後、回答の検証を兼ねて現地調査と取材が幾度に渡り行われ、案内人として筆者への出演依頼は撮影の約2週間前であった。案内人は番組出演は当然のこと、番組台本の監修なども行う。

番組台本はディレクターが原案を作成するが、その後の取材、番組関係者や案内人との議論・意見などにより修正が重ねられた後に完成する。

番組台本が完成した後は撮影当日と同じ行程・場所で十数名の撮影スタッフと共に現地リハーサルを行う。タモリ氏と女性アナウンサーは番組台本を全く知らされない状況で撮影当日のみ出演する。撮影は概ね番組台本に沿って進行するが、タモリ氏はその時の興味により番組台本から脱線することも多く、案内人は臨機の対応が求められるが、タモリ氏は話をどんどん盛り上げてくれる存在でもある。

撮影後は編集作業が1ヶ月間程度行われ、その間も資料のやりとりなどが続く。実際の番組が放送前に案内人に知らされることは無く、編集後に出来上がったナレーション原稿のチェックを行った後に放送となる。

3. ブラタモリで20世紀以降の泥流・土石流災害を紹介する際の留意点

ブラタモリはまちの成り立ちなどを地形地質に関連付けて紹介するケースが多く見られることから、タモリ氏に十勝岳大正泥流を紹介するに際して、番組が過去にどのような地形を紹介したのかについて、番組概要を紹介する書籍(NHK ブラタモリ制作班 2016~2018)より調べた。

地形種別では断層崖・河岸段丘などの小地形が53%と最も多く、次いで丘陵・段丘などの中地形(鈴木 1997)が26%を占めていた(図-1)。

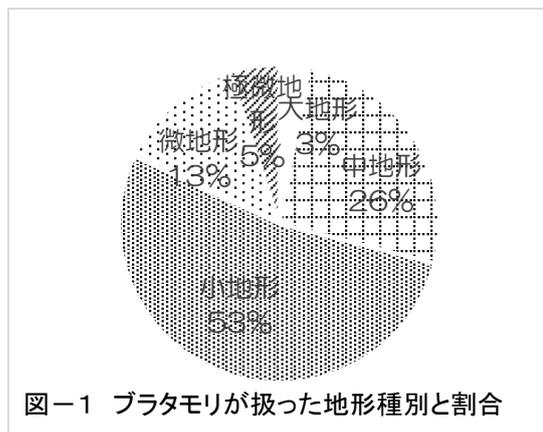


図-1 ブラタモリが扱った地形種別と割合

過去の放送では特徴的な地層・岩相・堆積構造等を紹介していたことに倣い、今回も大正泥流堆積物が観察可能なピット掘削露頭を用いたが、地形・地質に造詣が深いタモリ氏であっても平坦な微地形かつ新しい堆積物への対応は丘陵等の中・小地形と比して難しさを感じる一面があった。タモリ氏は「高低差の無いところに何の興味もない」(NHK ブラタモリ制作班 2016)としていることも、それを裏付けていると思われる。

一方で多くの記録が残されている大正泥流の被害と過酷だった復興過程を伝えることで、タモリ氏に泥流が与えた被害の甚大さを伝えることが出来た。

ブラタモリは知名度があり博識かつユーモアのあるタモリ氏の存在感に依存している部分は大きい(岡山 2019)ことから、ブラタモリで20世紀以降の土砂災害を紹介するには、タモリ氏の興味が無いとされる高低差の少ない泥流・土石流に伴う微地形や新しい堆積物の紹介よりも、記録が残されていることの多い災害と復興過程の紹介の方に適性を感じた。また十勝岳大正泥流は発生から90年余りの時間が経過していることにより被災の生々のしさが薄れたことに、まち歩き番組としての適性を感じた。

4. おわりに

ブラタモリは地域の歴史や成り立ちを地形・地質に関連付けて解き明かしていくことが多い番組であり、高頻度地形変動(土砂移動)と、土砂移動からまちを守る砂防関係事業との相性は良く、かつゴールデンタイムに放送されることから地域住民や一般視聴者への防災教育や広報のツールとして極めて有用である。土砂移動・土砂災害に関してブラタモリから依頼があった際は積極的に協力することをお勧めしたい。

参考文献

- 萬年一剛(2019): 地球科学研究者はブラタモリから何を学べるか, 地理 Vol64-8 P,4~P,9
- 岡山悠子(2019): ブラタモリの科学コミュニケーション的意義, 地理 Vol64-8 P,41~P,46
- 鈴木隆介(1997): 建築技術者のための地形図読図入門 読図の基礎, 古今書院
- NHK「ブラタモリ」制作班:(2016~2018)『ブラタモリ 1~18』,角川書店